

資源開発環境調査

大リビア・アラブ社会主義人民ジャマヒリーヤ国

The Great Socialist People' s Libyan Arab Jamahir iya

目 次

1. 一般事情	1
2. 政治・経済概要	1
3. 鉱業概要	2
4. 鉱業行政	2
5. 鉱業関係機関	2
6. 投資環境	2
7. 地質・鉱床概要	4
8. 鉱山概要	6
9. 新規鉱山開発状況	6
10. 探査状況	6
11. 製錬所概要	6
12. わが国のこれまでの鉱業関係プロジェクト実施状況	6
資料	6

1. 一般事情

- 1-1. 面積 179 万 Km²
- 1-2. 人口 560 万人 (2003 年推定)
- 1-3. 首都 トリポリ
- 1-4. 人種 アラブ人
- 1-5. 公用語 アラビア語
- 1-6. 宗教 イスラム教
- 1-7. 地勢等

リビアは、アフリカ大陸のほぼ中央に位置し、その国土は地中海のシドラ湾周辺からサハラ砂漠にかけて広がっている。国土の90%以上が平坦な砂漠であるため、気温は高温で乾燥しており、地中海沿岸部を除き年間降雨量は200mm以下。



(Lonely Planet HP)

2. 政治・経済概要

- 2-1. 政体 ジャマールヒーヤ (大衆による共同体制の意)
- 2-2. 元首 ムアンマル・アル・カザーフィ大佐 Muammar Al Qadhafi
- 2-3. 議会 全国人民会議
- 2-4. 政治概況

イスラム教を基調においた社会主義的、民族主義的国家的建設を目的とし、人民主権、直接民主主義に基づいた体制の確立を目指している。パンナム機事件の決着後、大量破壊兵器計画の廃棄を受け、米国との関係修復も進んでいる。

国連安保理の制裁停止を受けて、日本政府は2000年5月、外為法に基づく対リビア制裁に関するすべての規制を全廃する旨内閣官房長官の声明を特別に発表し、その規制の廃止が官報に告示され、正常化は完全に実現された。

2-5. 主要産業 石油

2-6. GDP 210 億ドル (2003 年推定)

2-7. 一人あたり 5,261 ドル (2001 年)

2-8. 通貨 リビア・ディナール (LYD)

2-9. 為替レート 1 US \$ = 1.2993 リビア・ディナール (2005/02 現在)

年末	1999 年	2000 年	2001 年	2002 年	2003 年
1US \$ =	2.1645	1.8507	1.5832	0.8266	0.7690

(International Financial Statistics 2004)

2-10. 貿易 (2003 年) 輸出 95.5 億ドル : 石油

輸入 62.8 億ドル : 自動車、電気製品、食料品

対日貿易 (2003 年)

輸出 5 百万ドル : 魚介類

輸入 199 百万ドル : 機械等

2-11. 経済概況

1992 年以降、国連による経済制裁の影響により、原油収入の減少、投資の縮小、外貨事情の悪化が起こり、経済成長は停滞した。99 年の国連制裁の停止を契機として、経済開放を進め、建て直しを図っている。石油価格の上昇と相俟って経済情勢は好転している。

3. 鉱業概要

リビアの輸出、GDP の殆どを石油収入に頼っており、石油以外では輸入原料に頼っている鉄鋼業があるだけである。

4. 鉱業行政

詳細未詳

5. 鉱業関係機関

国土・鉱山・エネルギー省 (Ministry of Land, Mines, & Energy)

6. 投資環境

リビア政府は、2008 年までに 360 の国有企業の民営化を進めている。詳細は明らかでないが、化学、鉄鉱、石油、鉄鋼の各業種が含まれていると見られている。

2005 年 1 月下旬、ダボスで開催された世界経済フォーラムに参加したセーフ・イスラーム・カダフィ／カダフィ財団理事長は、リビアが全く新しい時代に入ったことを参加

者に訴えた。

セーフ・イスラーム・カダフィ氏は「古い時代は終わり、リビアは近代化の新たな段階に移る用意が出来ている」とした上で、「こうした移行は、ロシアやエジプトのように一握りのオリガルヒ階級ではなく、リビア国民が新たな開放と所有を享受出来るような方法で行われる」「我々は決意した。勿論、成功するか否かは行動で見なければならない」と述べ、有言実行の精神で諸改革に臨むとの姿勢を強調した。

さらに、リビアが外国の専門家に移行期の計画案の策定を委任したことについて触れて、「彼等は世界的な専門家である。恐らくこうした動きにリビア国内から反発もあるだろうが、彼等は最善の人々である」と語り、人選に自信を見せた。そしてリビアが進めようとしている改革について「競争的な部門（の育成）に最大の焦点を当てている」「これが、全てを国内で生産しようとしていた1970年代、80年代との大きな違いである」と述べ、選択と集中で産業の育成を図る方針を明らかにしている。さらに続けて「我が国には現在自動車の生産工場があるが、これなど馬鹿げている」「我々はミサイルや航空機の製造を行おうとはしないし、日本が上手に製造できるものも作ろうとはしない」「こうした移行は民営化計画を必要とする。それはまた外国からの投資に影響を与えると共に国家による経済の管理を奪うことになる」と説明している。

加えて、「経済のリストラに際しては、一握りの人々に富が集中すると言う過ちを犯さないような方法で行わなければならない」「民営化の第一の対象はリビア国民で、国民による私的所有を増やして行く」「民営化はメディア部門で最も必要とされている。同部門は所有面でも検閲面でも国家管理を離れることになる」と民営化に向けた意欲を語っている。

リビアが真剣に経済改革に取り組んでいることを国際投資家に理解してもらおうと、カダフィ大佐は2004年、10名強の外国人専門家に政府部門と経済部門の改革案の調査を依頼した。因に、依頼を受けたのは、マイケル・ポーター／ハーバード大学ビジネス・スクール教授、ダニエル・ヤーギン／ケンブリッジ・エネルギー研究所（CERA）会長、マーク・フラー／モニター・グループCEO（コンサルタント会社）、メグナド・デサイ卿／グローバル・ガバナンス理事等である。調査事業の一つが政府改革の進め方に関するもので、2005年3月から2年間の予定で英国のアダム・スミス研究所が実施する。リビアの国家計画委員会のアブドゥルハフィド・マフムード・ズルティニ会長は「彼等は公務員について調査し、官僚主義の打破に必要な政策を検討する」「我が国の政府はもっと近代化され効率化されねばならない」と同調査事業の目的について説明している。また専門家達は、勧告書を提出する前にリビア政府が提案している一連の経済近代化案についても検討する。

このほかりビア政府は経済の民営化の一環として、金融部門の近代化を行うために世界銀行やIMFの専門家をリビアの中央銀行や商業銀行、財務省に常駐させることを希望している。

（リビア民営化計画の概要） IDCJ HP（2004年7月6日掲載）

民営化計画は、製造業、農業、畜産業、水産業等の様々な部門の企業360社の民営化を目標としており、次の3段階で実行される。

(単位：社数)				
部 門	第一段階	第二段階	第三段階	合 計
製造業	145	41	18	204
農業	28	4	24	56
畜産業	71	-	11	82
水産業	16	1	1	18
合計	260	46	54	360

・第1段階

第1段階の民営化では全企業の72%に当たる260社が対象とされる。これら企業の総資産は20億ドルで、従業員数は約6万人である。この段階での所有の移転は、2004年1月1日から2005年12月31日までの2年間で完了する。この段階には、次のような異なる三つの企業群が含まれている。但し、尚、第一段階で外国への売却も予定されている企業は12社のみである。

- 1) 高い需要があり民営化が容易と考えられている企業（191社）
- 2) 設備の老朽化や所在地が遠隔地であることから需要の低い企業（58社）
- 3) 国内産業支援基金（the Local Industries Support Fund、LISF）に移管される企業（11社）

・第2段階

第2段階の民営化では全企業の13%に当たる46社が対象とされる。これら企業の総資産は9億ドル超で、従業員数は約1.4万人である。この段階での所有の移転は、2004年1月1日から2007年6月30日までの3年半をかける。この段階の対象企業は中規模及び大規模企業だが、46社中、16社が一部又は全部の株式の外国への売却対象とされる。

・第3段階

第3段階の民営化では全企業の15%に当たる54社が対象とされる。これら企業の総資産は33億ドル超で、従業員数は約2.7万人である。この段階での所有の移転は、2004年1月1日から2008年12月31日までの5年間をかける。この段階の対象企業は超大規模企業で、54社全てが一部又は全部の株式の外国への売却対象とされる。

7. 地質・鉱床概要

リビアの殆どは、砂漠地域で人も住まず、詳細な地質図ができていない地域となっている。

この国は、African楕状地の北方線にあたるクラトン内盆地にある。先カリブリア系は南東部および北部Fezzan地方に分布する。古生層は各所に小規模に分布し、厚く中程度の

変成をうけている。中生代堆積層は北西部と北東部を除けば比較的薄い。第三紀の岩石は Sirte内湾と北部Cyrenaicaの大部分を占める。第三紀と第四紀の貫入岩と噴出岩は、中央部の広大な区域と、北部Fezzanおよび北部Tripolitaniaの一部に分布する。

南部リビアでは、大陸性環境が古生代末期から白亜紀中期まで支配的であったが、その中期を通じて北部リビアではSirte地域に数千mの海成堆積物が堆積した。海岸沿いの平野は第四紀の海成および陸成の地層に覆われており、Libyan砂漠の大部分は広大な砂礫平野および砂丘地帯である。

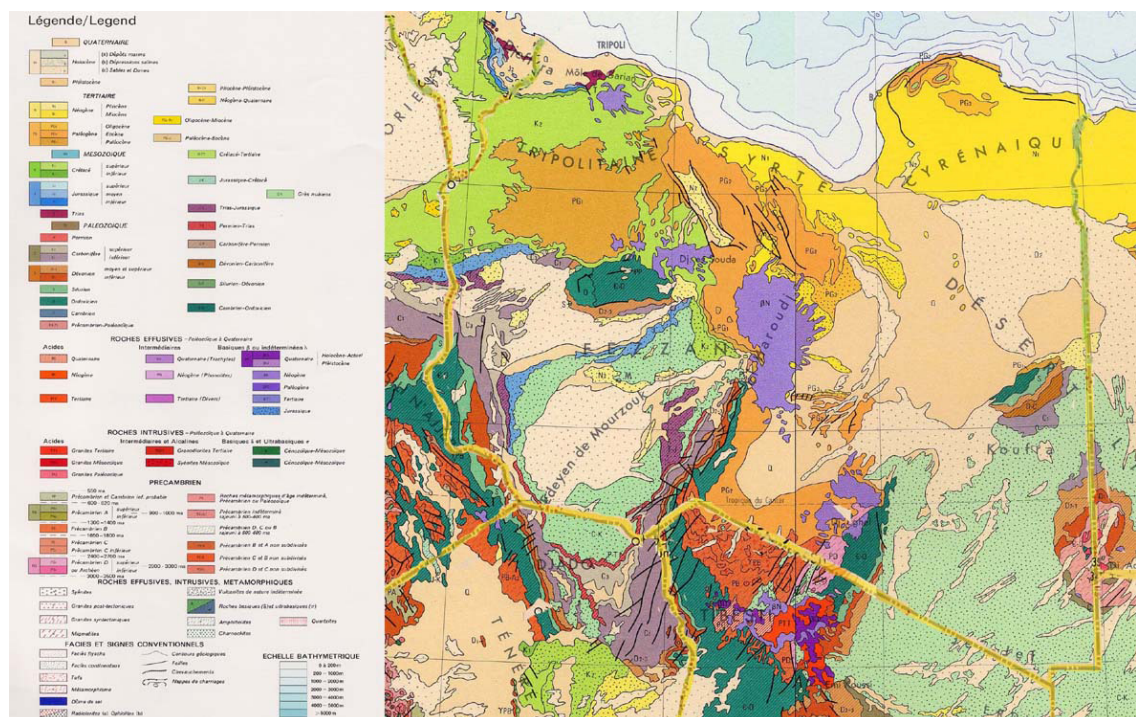
南西部にMurzuk、南東部にKufraの2大盆地があり、ウラン胚胎に適当な性質を有するものとみられる。

Murzuk盆地はアルジェリアおよびニジェールにまで広がり、主に二疊紀から白亜紀に至る陸成層が覆っているが、縁辺にはカンブリア系から下部白亜系までが分布している。

Kufra盆地はチャド、スーダン、エジプトにわたって広がり、二疊紀から早期白亜紀に至る陸成のNubian砂岩が発達している。盆地の北・西・南の隆起したケスタには、カンブリア系から石炭系に至る地層が露出している。

上部始生代の露出は、ダイヤモンドに関係するキンバライトのポテンシャルが推測される。また、幾つかの変成岩の存在は、金、鉄、ベースメタルの可能性もある。

石油以外の鉱物資源として挙げられているものは、鉄鉱石、石膏、石灰岩、石材が経済性を持っている。また、小規模鉱床として、リン鉱石、マンガン、バライト-セlestait等がある。



地質図(Atlas géologique du monde Geological World Atlas より抜粋・編集)

8. 鉱山概要

該当なし

9. 新規鉱山開発状況

Waddi Shatti 鉄鉱床

海岸より 900Km のところに位置し、現在輸入原料に頼っている Misurata 鉄鋼コンプレックスに原料の供給をもたらすことができる。

埋蔵量は、795 百万トン、品位 52%Fe。

10. 探鉱状況

該当なし

11. 製錬所概要

該当なし

12. 我が国のこれまでの鉱業関係プロジェクト実施状況

該当なし

資料

Federal Research Division [Http://www.loc.gov./rr/frd](http://www.loc.gov./rr/frd)

Mbendi

<http://www.mbendi.co.za/indy/ming/af/lb/p0005.htm>

North Africa Research Group GeoNet <http://www.northafrica.de/libya.htm>

・Atlas geologique du monde Geological World Atlas, 1976, UNESCO

動力炉・核燃料開発事業団 海外ウラン資源開発対象地域に関する資料 昭和 57 年